

『海の大変動』

-目次-

- オントンジャワ海台
- 白亜紀の海洋無酸素事変
- ダイヤモンド噴出事件

❗ 諸説! オントンジャワ海台 隕石衝突説!

2004年、アメリカの科学者らが形成に関して説明がつかない点を隕石衝突では!とし、論文にした。

通常できる沈降外なることも地球内部原因説では説明はできない。隕石衝突説を支持する人はゼロではない!

○ オントンジャワ海台

~史上最大級の火山活動で

海底に巨大な台地が誕生した~

約1億2000年前の白亜紀前期、深い海底に新たな異変が始まっていた。太平洋で史上最大級の火山活動が起ったのである。現在のソロモン諸島の北付近にその痕跡がある。

100万~200万年にもわたって続いたこの火山活動は地球の表面積の0.4%に相当する規模の溶岩でできた巨大な台地で『オントンジャワ海台』と呼ばれ面積は日本の13倍!!

これほどに大きな海台の形成は地球に大きな影響をあたえ地球の歴史はまた大きな局面を迎える事になった。

○ 白亜紀の海洋無酸素事変

~恐竜時代隆盛のとき

深海は“死の海”だった~

白亜紀の地球はオントンジャワ海台の形成をともなった火山活動の影響もあり「温室地球」とよばれ木子ほどだった。地上には恐竜が翼竜などが飛翔したそんな幸がかなる時代にあつて唯一“死の空間”だったのも悔の中、

海中が無酸素、貧酸素状態となり、そこにすんでいた有孔虫や放射虫、アモナイトなどの生物のうち、

あるものは死に絶え、あるものは酸素のある場所へ逃げた。海洋無酸素事変は、白垩紀末から始まったが、なぜまた白亜紀でもあったのか、答えはまだ見えていない。

○ ダイヤモンド噴出事変

~ダイヤモンドが次々と地表に降り注いだ~



◎ 約1億~1億8000万年前のマグマが噴出した時代とダイヤモンド産出地

中央アフリカやブラジルなど、おまに今のアフリカ大陸や南米大陸で地下200~300キロメートル付近で発生したマグマが超高速で地表に噴出した。しかし、このマグマが今も昔も人々を魅了してかまなり「ダイヤモンド」を地表近くへ運んできたのだ。このマグマが固まったものが「マントライト」とよばれる火山岩である。「宝石の王者」ともいわれる。

ダイヤモンドは地球深部からの“人類への贈り物”なのである。